

特別展

「どうする?どうなる!外来生物」

7月19日(土)~11月3日(月・祝)

近年、各地で問題になっている「外来生物」をテーマに、その由来や生息状況をはじめ、実際に定着した外来生物が引き起こしているさまざまな事例と対策を紹介します。

観覧料(常設展観覧料を含む)

20歳以上65歳未満	720円
15歳以上20歳未満	400円
高校生・65歳以上	200円
中学生以下	無料

当博物館の催し物は

ホームページをご覧ください。

問合せ先

神奈川県立生命の星・地球博物館

企画情報部 企画普及課

所在地 〒250-0031 小田原市入生田 499

電話 0465-21-1515

ホームページ <http://nh.kanagawa-museum.jp/>



特別展コラム

外来生物ってなんだろう

近年、人間の移動や物流が盛んになり、多くの生きものがペットや展示用、食用、研究などの目的で輸入されてきました。一方、荷物や乗り物などに紛れ込んだり、付着して持ち込まれたりしたものも多くあります。それらの一部が何らかの理由で逃げ出したものが「外来生物」です。これらは、意図的、非意図的の違いはありますが、人間の活動に伴って日本に入ってきているという点で共通しています。現在、日本の野外に生息する外国起源の生きものの数は、2,000種以上にものぼるといわれています。

身近な例を挙げると、野山で見られるコジュケイは狩猟目的で中国から持ち込まれ放されたものが定着しました。ミシシippアカミガメはペットとして北米から輸入されたものが逃げ出し、池や沼でごくふうに見られるようになりました。アメリカザリガニは、食用として輸入されたウシガエルの養殖時に与えるエサとして、北米から輸入されたものです。それが、いまや北海道から沖縄まで広い範囲で見られるようになりました。本来、外来生物は「外国起源の生

きものが人間によって導入され、日本に定着した」という意味合いから、「帰化生物」ともいわれていました。しかし、環境省は、外来生物を「もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物」と定義しています。つまり、もともとの生息地は国内外を問わないのです。カブトムシやキジのように、本州以南にしか生息していなかった生きものを北海道に持ち込んで野外に放したとしたら、それは北海道での外来生物にあたります。実際に、そのような事例が数多く寄せられるようになり、なかにはその地域に定着し、生態系すら変えてしまったものも現れました。このように、わたしたちの身近には様々な由来の外来生物が見られます。外来生物がどのような環境にすんでいて、そこでは何が起きているのでしょうか。私たちにできる取り組みは何なのでしょう。

今年7月から開催する特別展「どうする?どうなる!外来生物」では外来生物の事例や対策について詳しく紹介します。どうぞお楽しみに!(学芸員 加藤ゆき)

◆
特別展に関連したコラムを13ページと16ページにも掲載しています。併せてご覧ください。

ライブラリー通信

『全国博物館縦断!図録の旅』

にいやまな おこ
新山直子(司書)

博物館が大好きな皆さん!

ライブラリーで全国の博物館展示巡りをしませんか?

この度、ライブラリー雑誌架の1スペースに全国の博物館図録コーナーを作りました。

図録とは写真や図版をふまえた展示解説書のこと。全国の博物館ではさまざまな特別展や企画展を開催しています。寄贈されたそれらはライブラリー資料として受入れています。が、書庫の中に保管しており一般利用者の目にふれることはありませんでした。(希望があれば書庫から出しますが、その存在すらあまり知られていません。)

展示図録は各博物館で通信販売していることも多く、遠方に居ながらにして手に入れることができますが、これだけ

全国の自然史系博物館の図録を一度に見ることができる環境は貴重であると思います。まさに図録を通して全国の博物館のさまざまな展示を巡っているようでワクワクします。

もちろん実際に足を運んで自分の目で展示にふれるのが一番です。しかしながら会期も限られているので、あちらもこちらという訳にはなかなかいきません。

国内最大のヒスイの産地である新潟県糸魚川市の鉱物や化石を展示したフォッサマグナミュージアム、40体以上の恐竜の骨格標本が見られ、さまざまな恐竜の展示をしている福井県恐竜博物館、博物館にプラネタリウムを併設し、太陽系の展示や星空の生解説が聞ける平塚市博物館など・・・これはほんの一部です。で「あの特別展に行きたかったけど会期

中に行けなかった」とか「〇〇を集めた展示をしている博物館があるなら見てみたい」というようなご要望がある方はお気軽に司書までお申し付け下さい。

今巻では話題の?深海魚や身近な自然や動植物など、同じテーマに基づいた展示をやっていることも多いのですが内容の充実ぶりは十館十色!複数の博物館の図録を見比べると新たな発見があるかもしれません。また、皆さんの興味ある研究テーマを掘り下げて調べたいときにも図鑑や本だけでなく、図録を活用するのも一手ではないかと思います。

ちなみに当博物館の今夏開催予定の特別展テーマは「外来生物」です。展示もさることながら、どんな図録が完成するのか私も今から楽しみです。